



星の郷総合教室

No. 200

平成29年2月25日発行

電話072-895-6230

月	日	曜日	予 定
2	28	火	通常授業・授業料引落日
3	1	水	通常授業
	2	木	通常授業
	3	金	通常授業
	4	土	通常授業・暗算検定
	5	日	振替授業
	6	月	通常授業
	7	火	通常授業
	8	水	通常授業・授業料引落予備日
	9	木	通常授業
	10	金	通常授業
	11	土	通常授業
	12	日	西日本大会
	13	月	通常授業
	14	火	通常授業
	15	水	通常授業
	16	木	通常授業
	17	金	通常授業
18	土	通常授業	
		全日本コース申込締切 アバカスフェスタ申込締切	
19	日	振替授業	
20	祝	近畿大会	
		(通常授業はありません)	
21	火	通常授業	
22	水	通常授業	
23	木	通常授業	
24	金	通常授業	
25	土	通常授業・i-test一斉実施	
26	日		
27	月	通常授業はありません	
28	火	通常授業はありません	
29	水	午前授業	
		(夕方の授業はありません)	
30	木	春休み	
31	金	春休み	
4	1	土	春休み
	2	日	
	3	月	春休み
	4	火	春休み
	5	水	通常授業

3月 最終週

授業変更のお知らせ (重要)

3月27日と28日は、東京で講習会があるため授業ができません。両日の振り替えを3月5日の午前8時30分、午前9時30分、3月19日の午前8時30分、午前9時30分に行います。週2回または週1回で練習している生徒の皆さんは27日と28日の授業分を5日と19日で消化して下さい。振り替えが困難な場合は3月・4月の他の練習日に自由に振り替えて下さい。また3月29日(水)の練習は、午前中に行います。
 4時20分クラス→午前8時30分開始
 5時20分クラス→午前9時30分開始
 6時20分クラスと7時20分クラス
 →午前10時30分開始

29日の午後の練習はありません。29日の午前への振り替えが困難な生徒の皆さんも3月・4月の他の練習日に自由に振り替えて下さい。

3月27日・28日・29日の午後～4月4日は、教室が閉まっていますのでご注意ください。

3月4日暗算検定について

すべての級を午前10時30分から行います。所要時間は約20分です。4日の受験が無理な受験生は、2・3・4日

の授業中に受験できますので申し出て下さい。暗算検定日は原則として通常授業がありませんが、今回は午前8時30分と9時30分の通常授業を行いますので注意して下さい。

特別練習の予定と対象者

3月4日(土) 午後5時～7時

- アドバンスト・チーム (A-team)
- 西日本大会出場者
- 近畿大会出場者
- ユース大会出場予定者

3月11日(土) 午後3時～5時

- 西日本大会出場者のみ
午後5時～7時
- アドバンスト・チーム (A-team)
- 西日本大会出場者
- 近畿大会出場者
- i-test受験申込(予定)者
- ユース大会出場予定者

3月18日 午前10時30分～正午

- 近畿大会出場者
- ユース大会出場者

3月25日(土) 午後5時～7時

- アドバンスト・チーム (A-team)
- ユース大会出場者

3月12日西日本大会

集合…星田駅8時25分

帰り…星田駅18時頃

会場…大阪商業大学(近鉄河内小阪)
昼食の準備をしておいてください。電車賃は中学生で往復1000円以内です。現地集合・現地解散もできます。

3月20日近畿大会

集合時間などの詳細は追って連絡します。会場は奈良県大和高田市の奈良県産業会館です。昼食を持ってきて下さい。会場に早めに着いて昼食を済ま

せます。見学はできますが、座席には限りがあります。現地集合・現地解散も可能です。

3月i-test

3月i-testは3月25日の午前10時30分から実施します。25日に受験を希望する皆さんは24日までに申込を済ませておいてください。25日に受験できない場合は、25日までの授業時間中に受験できます。(26日以降は受験できません)

全日本ユース珠算選手権大会

2017年度の表記大会が4月23日に京都市・京都パルスプラザ(京都府総合見本市会館)で開催されます。西日本大会出場者や現在ユース大会の練習を行っている生徒の皆さん、i-testの全種目3rd stage以上を練習している皆さんで、参加基準点を越えた皆さんは出場できます。申込締切は3月18日、参加料は3000円です。

今年4月1日現在の満年齢が10歳以下の皆さんの部門(アンダー10)、12歳以下の部門(アンダー12)、15歳以下の部門(アンダー15)とに分かれて総合競技が行われ、全国順位がつきます。問題の難易度はかなり高度ですが、今から練習を重ねることで大幅な実力の向上が見込めます。大会を活用して、上手くなりましょう。

アバカスフェスタ2017

A1グランプリ大会の大阪府版として昨年始まったアバカスフェスタ2017年大会は4月29日(土・祝)にエル大阪(京阪天満橋駅下車)で開催されます。i-testを6種目練習している生徒の皆さんなら誰でも参加できますので

参加を希望する生徒の皆さんは参加料
2000円を添えて申し出て下さい。

部門（新年度からの学年です）

- ◎小学2年生以下の部
- ◎小学3・4年生の部
- ◎小学5・6年生の部
- ◎中学生の部

2月12日実施1～3級検定

【1級合格】（第196代～第199代）

河田青大 平生道照 奥田花 井上心結

【2級合格】

西井萌 古川治親 藤江健太 藤原茉央
有田ころろ 西松美咲

【3級合格】

山城真里奈 高橋恵太 中村結菜
西畑美伶 久本和奏 分林央華
伊丹琉太 林和花 吉岡春菜
石川ひなた 小野澤遼 中村颯希

1月i-test昇級・昇段者

2か月ごとに受験できるi-test。サイクルが他の試験に比べて短いだけに点数が上がったり下がったりを繰り返しますが、中長期的に点数を追っていくと緩やかな上りの傾向を示していきます。受験種目を決めた後、2週間ほど種目を絞って意識的に練習を繰り返すと昇級・昇段が近づきます。

◎珠算総合

- 準4段 由比彩菜
- 2級 藤原茉央
- 準2級 木中心大郎 林和花
- 3級 高山優
- 準3級 安達菜々美 判田悠輔
- 4級 藤原梨乃 貝谷憲吾 茅島陸斗
- 7級 安原良真

◎暗算総合

- 4段 由比彩菜

- 1級 津隈瑛翔
- 準1級 判田翔汰朗
- 2級 木中心大郎
- 3級 入口寛都
- 準3級 藤原茉央
- 6級 貝谷憲吾
- 7級 神山兼槻

◎かけ算

- 6段 由比彩菜
- 初段 藤原茉央
- 準初段 木中心大郎 津隈瑛翔
- 1級 林和花
- 準1級 判田悠輔
- 準2級 橋本栞里 茅島陸斗
- 3級 久堀力翔 山田知弥 澤田一心
林寿百
- 準3級 中嶋夏海 薄井正寿
- 4級 高森大賀
- 5級 広部有梨 八阪悠真
- 7級 下岡和生 谷風拓海
- 8級 橋本琉矢 今中倅
- 9級 江連雄大

◎わり算

- 2級 林和花
- 準3級 藤原梨乃
- 6級 安達菜々美 神山兼槻 早野蓮
- 7級 貝谷憲吾
- 8級 判田悠輔 安原良真 茅島陸斗

◎みとり算

- 1級 判田翔汰朗 高山優
- 準2級 橋本栞里
- 3級 藤原梨乃 山田知弥 澤田一心
青田裕哉 早野蓮
- 準3級 江連舞 熊谷優里 茅島陸斗
- 4級 中川咲月 仲井蒼純 八阪悠真
- 5級 今中僚 徳田みやび 土橋茉白
林寿百
- 6級 村田雄真 安部慈人 谷風拓海

7級 中谷鍾唯 池田心菜

9級 室宏樹

◎かけ暗算

6段 由比彩菜

1級 判田翔汰朗 木中心大郎

3級 林和花

準3級 入口寛都

5級 横山士竜

6級 早野蓮

7級 茅島陸斗

8級 中嶋夏海

9級 山田青空

◎わり暗算

準初段 木中心大郎 津隈瑛翔

2級 入口寛都 辻翔太

5級 安達菜々美

6級 神山兼槻

9級 貝谷憲吾

◎みとり暗算

初段 高山優

3級 藤原茉央

準3級 入口寛都

4級 貝谷憲吾

5級 横山士竜

6級 中嶋夏海 広部有梨 林寿百

7級 今中倅 高森大賀

8級 谷風拓海

9級 橋本琉矢 江連舞

出席時間20時間以上の生徒

(2月20日までの1ヶ月)

林和花63 山内美空52 久本和奏48

西松美咲48 藤江茉奈47 永津敦之45

西松優大44 和泉初音44 井上心結43

澤田一心43 西畑美伶43 岩瀬菜々香

42 大内峻聖40 深江萌黄39 奥田花

38 金本愛夢38 茅島陸斗38 田代和

花38 林寿百38 福原健太35 森本一

生34 西井萌33 森本爽月33 由比彩

菜32 大土井穂賀30 和泉琴音30 石

川ひなた30 兼松咲菜30 松岡亮大30

井上寛大29 村田拡己29 松岡晃大29

大土井慧賀28 金子直毅28 松井一真

28 茅島悠斗26 平生義智26 中井加

奈子26 小林知世25 久堀力翔24 津

隈瑛翔24 藤原茉央24 小林千尋24

土橋茉白24 木中心大郎23 谷風拓海

23 田中瞳夏23 田中夏希23 藤井琥

太郎23 山城真里奈23 分林央華22

藤原梨乃22 田中章太郎22 早野蓮22

吉岡春菜22 一宮敬智21 興田佳歩21

分林椿21 井上楽耀21 青田知晃21

上林剛士21 高山優21 沼田輝21 野

々村蒼良21 大上航正20 伊丹琉太20

平尾拓士20 福井太一20 吉村健太郎

20 渡邊紘生20

(あと1時間だった皆さん) 北尾陽太郎 有田こ

ろ 小野澤凜久 熊谷圭祐 藤江健太 森本倫才

猛スピードばく進中(PERFECT)

(初歩教材PERFECTを1ヶ月で20ページ以上進んだ生徒)

石川晴貴79 二反田陽翔77 佃紫苑51

梶原進太45 柿木彰乃38 小野澤凜久

37 福山弘大34 引波花莉音34 八幡

眞嘉33 岡野倅士29 秋裕人29 浜崎

馴也29 植村稜香28 松下航大27 興

田佳歩26 清水愛斗25 不破舜介23

薄井徳寿22 徳田湊介21

(あと1ページだった生徒) 中川敦貴

フラッシュ暗算合格者

(2月20日までの1ヶ月間)

六段 大土井楓賀

二段 松岡晃大 早野蓮

1級 松岡亮大 森本一生 高津侑良

2級 神山兼槻 辻翔太

3級 河合胡春 山口太雅 中島百萌

- 4級** 西村悠治 宮城葵 澤田一心
5級 火置甫 岩宗涼椛 広部有梨
 谷風拓海 仲井蒼純 藤井琥太郎
 澤田一心
6級 山田千尋 兼松祐介 火置甫
7級 山城秀斗 林寿百 瀧川航平
 米山すみれ 岸宝輝
8級 金井里琥斗 中川咲月 池田心菜
 安部慈人 榎本結 林寿百
 米山すみれ
9級 徳田みやび 二反田陽翔 林寿百
 興田佳歩 高津乃愛 福山芽依
 吉村健太郎 中川咲月 安部慈人
10級 服部愛瑠 中谷鍾唯 村田雄真
 徳田みやび 二反田陽翔
 興田佳歩 福山芽依

塾報200号

毎月25日発行のSTAR EXPRESSが、今月号で200号を迎えました。

200号を迎えるにあたって、過去の記録をいろいろ調べてみました。今月号の1級合格者に第196代～第199代と記しましたが、開塾以来195名が日本商工会議所主催の珠算能力検定1級に合格しています。また、段位を受験したことのある生徒が150名いることもわかりました。1級合格のさらにその上を目指してがんばってきた生徒がたくさんいたことにうれしさを感じています。1級を通過点ととらえると、1級合格への精神的なハードルの高さは下がります。

◎日本珠算連盟段位認定試験合格記録

(2017年1月までの最終取得段位。現役生は更新中です。)

段 位	珠 算	暗 算
十 段	5 名	7 名
九 段	3 名	1 名

八 段	1 名	2 名
七 段	4 名	6 名
六 段	5 名	6 名
五 段	7 名	7 名
四 段	9 名	19 名
三 段	22 名	14 名
準三段	9 名	10 名
二段	7 名	9 名
準二段	10 名	15 名
初段	15 名	6 名
準初段	15 名	8 名

◎フラッシュ暗算段位合格記録

(2017年1月までの最終取得段位。現役生は更新中です。)

十段	8 名	九段	6 名
八段	12 名	七段	10 名
六段	17 名	五段	7 名
四段	9 名	三段	46 名
二段	41 名	初段	34 名

☆大阪珠算協会主催 そろばん大阪一決定戦

10年連続部門優勝(2016年度大会まで)

☆日本珠算連盟・日本商工会議所主催 そろばんグランプリジャパン

ジュニア部門・スクール部門そろばん日本一(2013年)

☆全大阪オープン大会・クリスマスカップ・全日本ユース大会・全国通信大会などの全国大会で部門日本一

今まで多くの子どもたちが日々がんばってきた結果の一部です。暗算検定、i-test、地域の大会などの結果を紹介すると、もっと多くの子どもたちが登場します。

段位は、特別な人間が特別な環境のもとでたどり着く特別な世界ではないことが、この人数からおわかり頂ける

のではないのでしょうか。

段位試験とi-testは、種目ごとに合格級・段が認定されます。さらに、段位試験は、種目の中で最も低い段位が総合段位、i-testは種目ごとの級・段をポイントに換算して合計ポイントで総合級・段が認定されるシステムです。また、段位認定試験の総合段に関しては、2年間の成績をトータルで見ても段位を決定し、i-testに関しては過去の全種目別成績を見て判定する方法がとられています。暗算検定や珠算能力検定のように、結果が「合否」のいずれかだけではないのが、段位試験とi-testの特長です。そのため、得意種目をとことん進めていくこともできますし、不得意種目に的を絞っての受験も可能となっています。

昨年11月頃のことです。2年前に卒業した中学3年生から、星の郷教室で練習していた証明書を発行して欲しいという連絡がきました。高校入試にあたって在籍証明が加点対象になるというのです。ほぼ同じ頃、当教室が所属しております大阪珠算協会が私立中学・高校のいくつかにアンケートを実施した結果が出ました。アンケートでは、珠算段位や珠算能力検定の資格が入試において優遇される学校が相当数あることと、今後も前向きに検討していく学校があることがわかりました。

(優遇校の一覧は教室の窓に掲示しております) 日々のコツコツとした努力は、必ずどこかで報われるのです。

塾報のことに話を戻しましょう。

1999年9月に開塾。その9月に第1号を発行し、その後ほぼ毎月発行し続けてはや200号です。予定や成績など

のお知らせに加えて、そのときどきの出来事や考えなどを書いてきました。

200号を作成するにあたって、第1号と第100号を読み返してみました。が、当時書いていたことと、今考えていることにほとんど違いがないことに我ながら驚いています。ふれていないといえば聞こえが良いのですが、一方で進歩がないような気もしてなかなか複雑な心境です。

第1号に書きましたコメントをご紹介します。第2号から今まで書いてきたことは、すべて第1号の補足説明ではなかったかと自問しています。タイトルは「珠算学習とは」です。



この度は当教室にお申し込みいただきまして、どうもありがとうございます。9月1日に開塾し、2日に1回目の授業を行いました。そろばんを生まれて初めて見た生徒もいれば、昔そろばんを上級までやっていて、「子供と一緒にもう一度習います」とおっしゃるお母さんまで、様々な地域からいろいろな生徒さんが通われています。

塾内報『Star EXPRESS』は、教室内での出来事やお知らせ、その他思い付くことなどを書いて、不定期で発行していきます。ご家庭のみなさまからいただくご意見なども掲載していく予定です。

さて珠算教育が生み出す利点や、計算機がこれほどまでに普及している現代社会において珠算が改めて見直されている点につきましては8月下旬の折り込みチラシで種々ふれました。授業開始から1ヶ月近くが経過しましたが、早くもその効果がすでに現れてき

ているところを散見するようになってきました。

まず「90分の授業時間な⁴てとでもとても…。60分でも危うい。学校の授業時間でさえ、じっとしてられないのに」とご心配の保護者の方もいらっしやいましたが、生徒全員、苦もなく？ もくもくとこなしていています。今のところは平均60分授業となっていますが、自分の席から一步も離れず、あたりをキョロキョロと見回すこともなく60分間集中しています。

珠算学習の利点について、計算力や暗算力ばかりについつい目が行きがちになります。なるほど、数値で実力の伸びがはっきりとあらわれるのですから、これは致し方ないのかもしれませんが、これほどわかりやすい尺度は他にはないのであります。

しかし、計算力を付けるために練習していく過程において身に付く諸々の能力も無視するわけにはいきません。今号ではその一つ、「集中力」について考えてみましょう。

問題を見て、瞬時に一時的に記憶し、そしてその記憶を指先に伝えてそろばんに触れたり、記憶を頭の中のバーチャルソロバン、すなわち珠算式暗算に活用していく高度な処理などは、その操作過程においてわずかな注意力の散漫があっても正解は得られません。たとえば、今生徒が使っている初歩教材、これは当教室で作成しているものですが、10の合成・分解や5の合成・分解に入る前、すなわち基本的な運指練習の時点から、4桁～21桁、しかも長いものでは15口（足し算や引き算では、縦に並ぶ数字を

「口」という単位で数えます）に及ぶものもあります。珠算塾向けに市販されている教材では、おそらくこんなに難度の高いものはないでしょう。しかも、初歩の段階から珠算式暗算の基本を導入する問題も多く含んでいます。

これは、計算力をつけるのは無論のこと、「こんなに大きな数を計算できる」という自信をもってもらうことと、一つでも気を抜けば正解を得られないという、非常に高いレベルでの集中力を持続する訓練を最初から要求するものなのです。

さらにもう一つ付け加えると、子供たちに教室から帰って自慢して欲しいのです。びっくりするような大きな桁の問題を正解したときの生徒たちの満足あふれる表情には次のステップに意欲的に進もうとする気力があふれています。「ほら、こんなに難しい問題ができた」「すごいねー。よかったね。よくがんばったね」

たったこれだけの会話で子供たちは十分に満たされます。

ほめられるためだけに行動を起こすことはあまり良いとは思いませんが、困難を克服したといふ実感が自分であり、そしてその成果を結果的にほめられるのは何も子供だけに限ったものではなく、大人にとってもうれしいものです。そして、ほめることは相手を認めることですから、両者に非常に良好な信頼関係を作ることにもなります。

……話を「集中力」に戻します。

まだまだ生徒の皆さんには遠い先のことになるでしょうが、たとえば1級の乗算。桁数は6桁×5桁です。1題を解くのに必要なかけ算の九九は30、

運指回数は、その約3～4倍になりますからおよそ100回。答えの11桁を書く時間まで入れて、30秒でできないと合格しません。しかも、99%の確率ではダメなのです。さらにもっともっと上手になって10段を目指すようになれば、先の問題を解くのに許される時間は10秒です。

普段の生活において、6桁×5桁を計算する必要など全くないでしょう。しかしながら、6桁×5桁を計算するときに発揮される集中力は、今後の生徒の皆さんの人生において必ず生かされるものです。

数値では計測しづらい、この「集中力」。意欲的に珠算学習を続ける中で知らず知らずのうちに磨かれます。



8年以上前に発行した100号では、原稿用紙にして20枚を超える文字数の長文を書いています。そのタイトルは『珠算学習の本質』とありました。指導の具体的な場面について、指導の目的と方法を事細かにご紹介する内容となっています。教えたほうが良いか、教えないほうが良いか、教えないか、教えるべきか、教えるべきでないか、教えるべきでないか、教えるべきでないか。この4つのアプローチを、子どもの成長に寄り添う立場から考察するものでした。

「教えてもらう満足感」よりも「教えてもらえない不満感」の方が、気持ちの強さとしては大きいものです。しかし、それよりも大きいものがあります。それは、『自分の力で困難を乗り越えたときの達成感』です。

幸いにしてそろばん教室では、いつまでにどれだけのカリキュラムをこな

さなければならないという縛りはありませんから、『待つ』ことができます。もちろん、無計画に待つのではなく、教育的に、実現可能な達成感をそう遠くない時期に手に入れられるような見通しを持って、適度に子どもたちに働きかけていながら待つのです。

『ワクワク』しながら子育てできる期間は実はかなり短くて、『ハラハラ』『ドキドキ』『イライラ』する時間の方がずいぶん長いのが一般的でしょうか。この思いは発達途上の子どもたちに対する親の期待の表れそのものですから、決して消し去ることのできない感情ですが、どこかでふと子どもを『信頼して待つ意識』を少し持つことができればずいぶん気持ちが楽になります。

『待つ』ことについて、大阪珠算協会の研究誌に文章を書いたことがあります。当時その文章を塾報にも掲載しましたが、もう6年も前のことになりました。現在のほとんどの保護者の皆さんの目には触れていないものです。

長文ついでに今月号にもあらためて掲載させていただきます。星の郷教室の今後の決意を示すものとして受け取っていただけましたら幸いです。



～最強の習い事そろばん～ 脳移植に匹敵する珠算学習

欧米に比べればずいぶん立ち遅れている日本の移植医療。それでも昨今は、移植推進派には遅々とする歩みかもしれないが、少しずつ進んできている。法整備の進捗とともに、移植技術の革新的な進歩によって、やがては多くの臓器が移植、あるいは再生される

ようになるかも知れない。

しかし、いくら技術が進歩しても移植しようのないものが脳である。ものを考える脳は、存在そのものが自分自身であるから、移植するとそれはもはや自分ではなくなる。技術的にも移植が可能になっても、倫理的に永久に実現しないものが脳移植だろう。

ところが、私たちは、子ども達が脳移植でも受けたかのような劇的な変化を目の当たりにすることがある。まれに、ではなく、日常的に、である。ある日突然視界がパッと開け、トンネルから抜け出る瞬間に私たちは出会う。偶然ではなく、必然的に出会う。「珠算学習が脳のふたを開く」のである。

以前は、加減の基本が終了すると自動的にかけ算の導入を行っていた。かけ算九九の不安な生徒には九九表を見させて計算させ、そのうちに自然に覚えるのを待っていた。ほとんどの生徒はそれで大丈夫なのだが、そろばん・問題・九九表の間を視線が行き来することで乗加位置（注：かけたしていく場所）の間違いを防げない生徒が散見されるのが悩みの種であった。

結局、九九を完全に暗記するのを待ってからかけ算の指導に入るように指導体制を変更したのだが、暗記するまでの間、ただひたすら2桁3口、2桁5口、2桁7口をそれぞれ10題ずつ収めたみとり算の練習をさせた。別段深い狙いがあったわけでもなく、どちらかと言えば“仕方なく”させた練習であったが、これが思いもしない果実を生み出すことにつながるとは導入直後は想像すらしていなかった。

加減の基本は終了したものの九九に

少しでも不安のある生徒のグループは、1回の授業で多いときに10名を超える。初めのうちは、グループ全員で一斉に開始し、最高得点者を優勝、同点の場合は計算時間の短い生徒を勝者にして競わせていた。集中して必死に取り組む雰囲気は、とても初歩の生徒たちが生み出すものとは思えないほど緊迫し、それなりの成果を生み出していたが、やがてむやみに速く計算して誤算を増やす生徒や、逆に長時間をかけて慎重すぎるほど慎重に計算する生徒が出てきて、他者との勝負にのみ執着する雰囲気が少し顕在化してくるようになった。

そこで、次に「過去の自分との競争」を主眼にすべく方式を変えることにした。やりかたは単純で、一人ひとりの最高タイムに40秒を加えた「足きりタイム」を設定し、足きりタイムを超えてしまうと、最高点を記録しても認定せず、勝負への参加資格を失うこととした。自分の設定時間が唯一の競争相手である。足きりタイム内に終了しなければならないため、みんな必死に取り組む。この必死さが高度の集中力を生み、誤算を減らすことにつながる。最高タイムが出ればうれしいが、同時に足きりタイムも縮むわけで、生徒にとっては、やっかいな練習であるが、しばらく続けているうちにある変化が現れてきた。

ある生徒。入塾当初から、とてもおとなしく、かなり引っ込み思案気味。自己主張をすることがなく、採点待ちの列に加わることに遠慮がちであった。「すべてにおいて、ゆっくりしている子どもです。せめて計算だけでも

速くできれば…」入会時にお母さんから伺っていた言葉である。

確かにお母さんが仰ったとおりで、テンポが上がってこない。見守っているとゆっくりではあるものの何とかできるが、自分でやるとなるとなかなか自信が持てず、指が進まない。怖々と動かしているうちに思考が混乱してきているのが端から見てもわかる。

私が発する指導上の質問だけでなく、たわいのない会話でも質問を投げかけられると体が硬直し、口が開かない。授業中は誰とも話さず誰とも視線を合わせずにいるので、答案の交換相手を見つけれない。指導すると、緊張のためか手が痛々しいほど震える。やっとの思いで口にする言葉は小さすぎて聞き取れない。私の精一杯の優しさを込めた「もう一度言ってごらん」という言葉にすら、叱られていると思うのか今にも泣き出しそうな表情になる。動作も話し方もゆっくりで、教室ではいつも何かにおびえたような感じで過ごしていた。

自信を持たせるために、何度か初歩教材をやり直した。自分でできる、ということ腹の底から実感させるためである。外見や日常の行動からは想像しがたかったのだが、この頃から何度戻されても決してめげない強い心と、毎日のように教室にやってくる豊富な練習量がこの生徒の最大の長所であったと私は気づかされることになっていく。

数回やり直した後、ようやく先述のグループに入れるようになったこの生徒にとっての初日。他の幼稚園児や1年生達の多くが5～6分台で計算を終

了する中、20分ほどかかってやり遂げた。採点すると誤算続出で、授業時間内に間違い直しが終わらない。悔しいのか、悔しくないのか、何とか表情を読み取ろうとするが、表情にほとんど変化はない。ただ、周囲が次々と計算終了の返事をするたびに、返事の主を捜してはキョロキョロしていた態度だけが、それまで何があっても自分の目の前の課題をじっと見続けるだけのこの生徒の唯一の変化だった。

連日、練習回数をこなしていく。少し計算時間を短縮できたかと思えば、また元に戻ったりする日々が続く。かけ算の九九は暗記しているが、みとり算が正確にできないとかけ算の進みが遅くなることをお母さんにも説明し、みとり算の強化練習を続ける。

練習を始めて1か月ほど経った頃。計算時間にあまり変化はなかったものの、誤算が極端に減ってきて、「優勝」することができた。自分専用の制限時間内ででき、グループ内で最少失点だったのである。

その瞬間、この生徒に変化が起こった。自力で成し遂げた結果が正当に評価され、最高の結果が得られたのは、おそらく人生で、——といってもまだ数年ではあるが——、初めてのことだったのかも知れない。その時初めて、「目が笑った」のである。

その日を境に、「よーい、はじめ」の声に反応してプリントを表にする動作、鉛筆をつかみそろばんを持って1番に取りかかるまでの速さ、計算ができてから答えを書き始めるまでの速さ、答えを書いてから次の問題に移るまでの速さ、などなどがすべてスピー

ディーに淀みなく動きだした。「見る・覚える・考える・動かす」という一連の動作がほぼ同時に連動しはじめ、計算タイムがどんどん短縮されてもいった。自分自身の可能性の広がりを感じ、まるで孵化するかのように殻を破って行って、生まれ変わったのである。何か芽生えたのだ。

結局この生徒は2か月ほどの練習で7分台前半まで時間を縮め、現在は乗除の習得にいそしんでいる。私が準備したものは教材と環境、そして生徒と私の双方に不可欠だったのは「ガマン」であった。そこに保護者の子どもを見守る温かいまなざしと、いつまでもどこまでも子どもを信じて待つことのできる辛抱強さという強力なバックアップがあってこそその成果であった。

「今」は今を乗り切るためだけにあるのではなく、将来の準備としての「今」なのである。そう腹を決めてかからないと、変化のない最初の1か月で見切りをつけていたかも知れない。「先に進ませてあげないと生徒が飽きてしまうのではないだろうか。保護者から疑念を持たれないだろうか。授業料をもらっているのだからもっと教え込んだ方が良くはないだろうか」と、とにかく目先の困難だけを取り払うことに執着すると、このような劇的な変化は起こらなかったかも知れない。今更ながら、我々指導者にもガマンが必要だと思い知ることになった。

「待つ」ことができるのが珠算学習の利点の一つだと思う。基本的にカリキュラムはあるが、いつまでにどこまでできていなければならない、という時間を限った縛りはない。

「待てない」症候群にかかった大人達に育てられた子どもはかわいそうで、なぜなら、「できそうでできない」「できなさそうでもできた」というワクワクする体験は、「待つ」行為と一体であるからである。成功体験と失敗体験の多寡が心を豊かにすると確信している。

ところで、先に、今ご紹介した練習を続けていると、「思いもしない果実を生み出す」と書いたが、その果実とは暗算力であった。

最高タイムの更新を目指して取り組んでいると、やがては頭打ち状態になってくる。技術の上昇グラフの傾きが緩やかになり、水平になるときがあったりして、その打破には技術革新が必要になるのだが、それが暗算導入のきっかけとなる。

指が止まらずに動き続けるほどうまくなってくると、自然に暗算でできるようになる瞬間があるようである。グライダーが滑走を続け、ある速度を超えるとやがては飛び上がるようになるのと同じで、生徒によって多少の差異はあるが、先の問題を5分台ではじけるようになってくると、無理なく暗算でできるようなのだ。少し暗算でやってみて、まだ難しそうだと生徒自身が判断すればそろばんに持ち替えたりして、自分から進んでチャレンジしている。赤ん坊が寝返り、ハイハイをし、立ち上がり、一歩目に挑む様子と、まさに同じ光景が繰り広げられていく。中には3分台でできる生徒もいて、周囲に良い刺激をまき散らしてくれる。

こんな生徒達は、フラッシュ暗算で

も難なく合格していくようになった。
キャリアをもっと積んでいる上級生の
暗算力を凌駕してしまっている。

繰り返しになるが、この生徒達は、
私が口頭でランダムに出題するかけ算
九九のテストにまだ合格できていない
生徒達である。

今まで暗算能力の獲得を目指して様
々な教材や技法を考えてみたり、実践
したりしてきたが、目下のところは、
ただひたすらみとり算を弾き込むこ
と、このシンプルで“古典的な”方法
に回帰している。

入塾間もない頃から簡単な暗算の練
習を行ってはいるが、私の教室から、
「本格的な暗算の導入」という概念は
もはや無くなってしまった。

そろばんと暗算との間にあった“垣
根”は、もしかすると「暗算の導入」
という言葉に代表されるような、大上
段に身構えた心の中にこそあったのか
も知れない。



お車での送迎に関しまして

先月号でお願いいたしました件です
が、今月号でも再度掲載し、お願いし
たいと思います。多くの皆様にご理解
とご協力をいただいているのですが、
まだ数名の方々にお守りいただけてい
ないようです。どうか下に書きました
のお時間を守っていただけますようお
願いたします。

お迎え時間

- 月・水・金 17時20分以降
- 18時20分以降
- 19時20分以降
- 20時15分以降
- 火・木 17時20分以降

18時20分以降

19時15分以降

土

9時30分以降

10時30分以降

なお、練習内容によりましては、終
了時間が延びる場合があります。お迎
えにいらしたときに生徒が乗降場所
にいない場合は、その場でお待ちにな
らず、通り過ぎて下さいますようお願い
いたします。（向かいの歩道にお子様
の姿を見つけられても通り過ぎてくだ
さい。）ハザードをつけて生徒の帰り
を待つこともご遠慮ください。

2017年新入生募集中です

そろばん学習は、様々な可能性を秘
めた子供たちの、基礎・基本となる力
を高める習い事です。

集中できる雰囲気の中、仲間やライ
バル、目標に出会って共に伸びていく
中で人間性も養われていきます。また
身につけた暗算力は一生の宝物になり
ます。ご家族、お知り合いに、ぜひそ
ろばん学習をおすすめください。

◎今月の塾報では、いくつかの文字を
逆さまにしています。逆さまの文字を
並び替えて意味の通る言葉にし、メモ
用紙に書いて提出して下さい。

正解者先着30名にドリームカード
を2枚進呈します。

◎授業の見学はいつでもできます。連
絡はいりません。生徒たちが熱心に取り
組む様子をぜひご覧ください。ご家庭
や学校とはまた違う表情をご覧いた
だけるとおもいます。

**3月最終週は練習時間が
変則的になります。間違え
がないようにして下さい。**